

平成 27 年度 事前評価点検表（内部評価）

事業名	一般府道 三林岡山線 交差点改良事業	
担当部署	都市整備部 交通道路室 道路整備課 建設グループ（連絡先 06-6944-9276）	
事業箇所	和泉市唐国町二丁目～あゆみ野一丁目	
事業目的	本路線は、阪和自動車道及び泉北高速鉄道と並行し、和泉市中部の国道 480 号と府道岸和田牛滝山貝塚線を結ぶ主要幹線道路である。本事業区間は、慢性的に渋滞が発生していたが、平成 26 年秋には、近隣に大型商業施設が相次いで開業したことから交通量がさらに増加している。また、唐国南交差点南側には新たに商業施設が開業予定であり、さらなる交通量の増加と交通渋滞の発生が想定される。このため右折レーンの設置等、即効性のある交差点改良整備を行うことにより、円滑な交通流を確保し、渋滞緩和を図ることを目的とする。	
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> 交差点改良 7 箇所（右折車線の追加 北行き 4 箇所、南行き 3 箇所） 延長 L= 760m （現況） 幅員：12.0m 南・北行き 直左 1 車線 直進 1 車線 （計画） 幅員：W=15.0m 南・北行き 直左 1 車線 直進 1 車線 右折レーン 1 車線 	
事業費	<ul style="list-style-type: none"> 全体事業費：約 7.4 億円（国：4.1 億円、府：3.3 億円） （内訳） 設計費 約 0.2 億円 用地費 約 5.2 億円 工事費 約 2.0 億円 	
	【事業費の積算根拠】	【工事費の内訳】
事業費の変動要因	<ul style="list-style-type: none"> 事業費は積み上げにより算出 交通安全施設工 約 0.4 億円 舗装工 約 1.6 億円 	
事業費の変動要因	<ul style="list-style-type: none"> 【今後の事業費変動要因の予測】 現地調査したところ、事業費の変動要因は特にみられない。 	
維持管理費	約 640 万円／年（年間 約 33 万円／千㎡：過去 5 年の実績より算出）	
関連事業	特になし	
上位計画等における位置付け		
優先度	<ul style="list-style-type: none"> 慢性的な渋滞に加えて、H26 年秋に周辺で大型商業施設が相次いで開業し、さらなる交通渋滞を引き起こしており、また、本事業区間南側にも新たに商業施設が開業予定で、さらなる交通渋滞の発生が想定される。 本事業区間では、事故も多く、過去 3 年間に死亡事故も発生している。 <p>以上のことから、早急な渋滞緩和対策及び安全確保が必要なため、優先度が高い。</p>	

事業を巡る社会経済情勢等	<ul style="list-style-type: none"> 当該道路の状況 平日は朝夕の通勤ラッシュ時、休日は昼前後から夕方にかけて交通量が多く、右折車両による渋滞が発生し、それに起因する事故が発生している。 現況交通量 <ul style="list-style-type: none"> 北松尾小学校南交差点 調査日時：H27.11.6（金） 平日 北行き：昼間 12 時間交通量 12,487 台 ピーク時（18 時台）1,325 台/時間 ピーク時滞留長 112.4m 南行き：昼間 12 時間交通量 12,717 台 ピーク時（7 時台）1,550 台/時間 ピーク時滞留長 85.3m 唐国南交差点 調査日時：H26.7.20（日） 休日 北行き：昼間 12 時間交通量 10,801 台 ピーク時（17 時台）1,236 台/時間 ピーク時滞留長 97.5m 南行き：昼間 12 時間交通量 14,189 台 ピーク時（12 時台）1,441 台/時間 ピーク時滞留長 136.5m 交通事故発生状況（当該区間） H24～26（3ヶ年）北行き：13 件（うち死亡事故 1 件）、 南行き：14 件（うち死亡事故 1 件）
地元の協力体制等	<ul style="list-style-type: none"> 地元市より和泉中央駅周辺での慢性的な交通渋滞の解消について、強い要望がある。
事業の投資効果<費用便益分析>または<代替指標>	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全事業における費用便益分析手法は確立されていない。
事業効果の定性的分析（安心・安全、活力、快適性等の有効性）	<p>[効果項目]</p> <ul style="list-style-type: none"> <安全・安心> <活力> 交通事故の減少 ・渋滞緩和による通行性の向上 <快適性> 渋滞緩和による大気汚染、騒音など地域環境の改善 <p>[受益者]</p> <ul style="list-style-type: none"> 道路利用者 ・沿道住民
事業段階ごとの進捗予定と効果	<ul style="list-style-type: none"> 平成 28～30 年度：設計、用地買収 平成 31～32 年度：工事
完成予定年度	平成 32 年度
代替手法との比較検討	<ul style="list-style-type: none"> 本箇所ですぐに円滑な交通を確保するためには、現在の交差点内に右折レーンを増やすことが最善策である。
自然環境等への影響とその対策	<ul style="list-style-type: none"> 周辺道路の交通混雑が緩和され、大気質への負荷物質排出量の抑制に寄与する。
その他特記事項	<ul style="list-style-type: none"> 特になし
評価結果	<p>○事業実施は妥当</p> <p><判断の理由></p> <ul style="list-style-type: none"> 本事業区間は、南北方向に慢性的に渋滞しており、平成 26 年秋に近隣に大型商業施設が相次いで開業したことと、本事業区間南側には、新たに商業施設が開業することから、さらなる交通渋滞の発生が想定される。このため、即効的に円滑な交通を確保するため、交差点内に右折レーンを設置することにより、渋滞緩和が図れることから「事業実施」とする。

平成27年度 事前評価 一般府道三林岡山線 交差点改良事業

